

【提出様式】 令和3年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 西池袋中 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
434	227	24	9

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策				
				児童・生徒				保護者					地域					教職員					自己評価 概要	学校関係者 評価の意見	評 語	
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1					
I	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学 校、中学校)と連携を図ろうとしている。						60	86	25	10	46	6	3	0	0	0	17	6	1	0	昨年同様コロナ禍のため、顔を合わせ ての会議は実施できなかったが、計 画・変更・実施・評価まで中学校主導 で関係小学校とのやり取りを進めた。 学校紹介DVDを作成し、連携先の小学 校へ送ることを行った。	○コロナ禍でよくやれている。 ●学校選択制の自由をなくしてほしい。 ●連携がどのような取組に対して指している かが、保護者にもわからないので「0」が多い のかと思う。	A	小中連携推進協議会を通して、児童・生徒 の学力や生活力の向上につながる取組を行 えるよう、調整・検討していく。
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分 かりやすい授業を行っている。	児童・生徒 を対象としたアンケート集計表をご参照 ください。					57	111	26	1	32	8	1	0	0	0	21	3	0	0	2学期からオンラインで授業 配信を行い、事情のある生徒 へ対する学習権の保障に力を 入れた。また、授業改善推進 プランをもとに、タブレット 端末を使用した授業改善にも 取り組んだ。	○学校参観のときに生徒がICT機器やタブレットを 使用した授業やグループ討議の課題を真摯に取り組む 様子を見て、先生方と生徒との信頼関係が見て取れ た。 ○不登校やコロナ不安で学校を長期に渡る自宅学習が 進んでできる家族には有効だが、家庭の意見や様子を 聞いてみたい。 ●普段の学校生活を保護者がどの程度、日常会話をし ているかで判断が変わるのでは。	A	今年度始めたオンラインでの授業配信やタ ブレットの活用における課題を改善し、よ り発展させていく。また、タブレット端末 を有効に活用し、生徒にとって分かりやす い授業を行えるように授業改善に努めてい く。
		II－2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用に より、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの 意欲の向上に取り組んでいる。						68	110	25	7	17	7	2	0	0	0	20	3	1	0				
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をと おして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づく りを推進している。						57	113	14	5	38	7	2	0	0	0	23	1	0	0	コロナ禍ではあったが、ICT 機器を活用して道徳授業地 区公開講座を行ったが、反 面、それが「分からない」に つながったと思われる。保護 者への取り組んでいる内容の 周知方法の工夫が課題。	○道徳教育の取組はよくなされて いる。 ●道徳教育の方向性は理解でき るが、歴史認識も同時に教えるべき ではないか。	A	道徳の授業を要として、各教科において も命の教育にも力を入れ、生徒の豊かな心の 醸成を目指し、暖かい雰囲気づくりに努め ていく。そうした取組を、HPや学校・学年 だより等を使用し、保護者等への周知に繋 げていく。
		III－2	学校は、生命を大切に する態度や思いやり、優 しい心を育てている。						54	104	16	6	47	5	0	0	0	0	20	4	0	0				
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極 的に取り組んでいる。						89	110	14	2	12	7	2	0	0	0	20	4	0	0	本校の特徴である体力向 上についての取組の成果 が高定率の高さにつな がっていると考えてい る。	○体力、食育共によく取り組んで いる。 ○走る力を中心に体力向上に取り 組んでいる。	A	様々な活動が制限される中で、健康な生活 を送れるようにするために、自らの健康や 体力の向上について考え、実践する場面を 意図的につくっていく。
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に 取り組んでいる。						64	108	18	4	33	7	2	0	0	0	20	4	0	0				
V	一人一人を大切 にする 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早 期対応）に学校全体で組織的に対応している。						46	95	14	8	64	6	2	0	0	1	18	5	1	0	いじめ防止に対する学校 全体の取組に関しては概 ね良かった反面、特別支 援教室等に関しても、分 からない「分からない」 の回答が多いため、今後 どのように周知してい くかが課題である。	○いじめへの取組は西池中の根幹 を支えており、引き続きお願い したい。 ●当事者や関係があれば判断がつ きますが、それ以外だと判断がで きないことだと思う。	A	学校としての取組をHPや学校だより等で周 知しながら生徒一人一人に寄り添い、適切 な場面で適切な声かけができる関係性を築 いていく。また、次年度はインクルーシブ 教育にも取り組み、各教科の授業や行事等 で特別支援学級と交流し、そのために必要 な知識を研修等で培う。
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一 人一人に寄り添いながら、指導を行っている。						64	93	31	11	28	6	0	0	0	0	18	6	0	0				
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一 人一人に適切な指導を行っている。						49	66	11	7	94	8	1	0	0	0	17	7	0	0				
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生 活を送っている。						94	103	11	5	14	6	3	0	0	0	14	9	1	0	生徒との面談等でも本校の特徴として 「落ち着いた学校」「あいさつの活発 な学校」「いじめのない学校」とい う声がよく聞かれる。しかし、保護者か らの要望も多様化していることから、 より柔軟に対応できる学校づくりをし ていく必要がある。	○生徒はいつも落ち着いており、不安 を感じることがない。 ○生徒たちが友達と楽しそうに登下校 する様子や訪問時に礼儀正しい姿を見 て、学校生活が充実している様子が伺 える。	A	全ての生徒にとって「安心して登校でき、 満足して下校できる学校」を実現するた めにも、学校組織の見直しや、様々なさ まり等の見直しに取り組む。
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止 め、学校改善に生かしている。						55	86	18	5	63	8	1	0	0	0	19	5	0	0				
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりや ホームページ、学校公開等によって、分かりやす く伝えている。						111	91	14	4	7	5	3	0	0	0	19	5	0	0	HPは毎日更新し、生徒 の様子を発信している。 HP内を整理し、古い情報 を削除したり、必要な情 報を探しやすいように改 善する必要がある。	○HPなどの情報公開はアップデ ートを含め、よく行われている。ま た、小学生家庭も高学年になると 気になり、よく見ている。	A	HPの管理担当を設け、情報発信の価値機 能を高める。 生徒の活躍の場を地域へ求めたり、地域の 教育力を学校に取り入れることを積極的 に推進する。コロナ禍においても実施でき ることを開発していく。
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育 している。						64	108	18	5	32	7	2	0	0	0	16	7	1	0				
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	学校は、「あいさつ運動」への取り組みに関する 教育を推進している。					130	61	12	3	21	9	0	0	0	0	21	2	1	0	「あいさつのごたまろ西池中」のス ローガンの通り、あいさつに対する生 徒の意識は高い。より自発性を育て ていきたい。	○学校はとても努力していると思 う。	A	あいさつの意義や素晴らしさを考える機会を設け、さら に 気持ちの入ったあいさつが、いつでも、どこでも、誰に対 してもできるよう教職員が率先垂範していく。	
IX	働き方改革	IX－1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学 校」を意識した業務分担等により、組織的に業務 の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。															6	13	4	1	労働時間の短縮、仕事の効率 化は、まだまだ意識改革や工 夫すべき点がある。学校全体 で同一方向を向き「働き方改 革」を推進する必要がある。	●働き方改革は一層の前進をお願 いしたい。 ●教員が雑務に追われ、本来の業 務ができていないように思われる が、実態がよくわからない。	A	「働き方改革」を担当する組織を設け、年 間を通して教職員の全体目標、個人目標 を設定し、進行状況の把握、評価、改善を繰 り返していく。	

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある